平成21年度

推薦図書二水50選

石川県立金沢二水高等学校図書館

著名・著者名	解説・紹介	発行所
01 10代のうちに考えておくこと 香山　リカ著	「今の私の8割は、10代のころにできた」と精神科医の著者はいう。「あんなに頭や心を使うのは、もうイヤ」とも思うけれど、思春期に考え、悩むことは一生の宝物になる、と説く。	岩波 ジュニア新書
02 なぜ日本人は 学ばなくなったのか 齋藤　孝著	近年、数字に顕著に現れている日本の若者の学力低下、読書量の不足、意欲の衰退――。萎縮する人間から「できる」大人になるための、強い教育力をとりもどすために必要な条件を提案する。	講談社 現代新書
03 ヴィジュアル時代の発想法 －直感をいかす技術－ 手塚　眞著	情報化社会において、大量の情報とどうつきあうべきか。整理し捨てる技術ばかり取りざたされているが、それは情報を生かしていることになるのだろうか。マルチな頭の使い方を知り、真のクリエイターを目指せ！	集英社新書
04 君はレオナルド・ダ・ヴィンチ を知っているか 布施　英利著	偉大な科学者で、世界一の画家。現代人にも大きな魅力を与え続けるレオナルド・ダ・ヴィンチの足跡を、残された名画とメモを頼りに辿ってみよう。	ちくま プリマー新書
05 楽しいぞ！ひと昔前の 暮らしかた 新田　穂高著	マキ割り、風呂焚き、たき火、餅つき、うどん打ち、蚊帳吊り……、昔ながらの暮らしの知恵やひと手間かけることのヨロコビを味わおう！かやぶき屋根の家で暮らす著者による明るく楽しい自然生活入門。	岩波 ジュニア新書
06 駿台式！本当の勉強力 大島保彦他著	なんのために勉強するのか。迷っている高校生達は全国にいる。迷える浪人生たちと日々格闘する著者たちが送る、学ぶ若者たちへの熱いメッセージがここにある。	講談社 現代新書
07 「自分」を生きるための 思想入門 竹田　青嗣著	死の反照として生の意義を捉えてきた人間の宗教史思想史を振り返り、新たなる生の有意義性（もしくは無意味性）を問うなど、人とは何者であるかを再考させる一編。	ちくま 学芸文庫
08 99.9％は仮説 －思いこみで判断しないための考え方－ 竹内　薫著	科学の基本は「世の中全部仮説にすぎない」ということ。常識、前例、先入観、固定観念にしばられた時に読むと、ものの考え方から世界の見え方まで変わるはずです。	光文社新書
09 当事者主権 中西正司・上野千鶴子著	障害者、女性、子ども、不登校者、患者など問題をかかえていると見なされている当事者たちが、「自分のことは自分が決める」と声を上げた。社会を組み替える、大胆な提言の書。	岩波新書
10 こころの処方箋 河合　隼雄著	あなたが世の理不尽に拳を振りあげたくなったとき、人間関係のしがらみに泣きたくなったとき、トラブルに立ち向かう秘策を与えてくれるだろう。	新潮文庫
11 国家の品格 藤原　正彦著	いま日本に必要なのは、論理よりも情緒、英語よりも国語、民主主義よりも武士道精神であり、国家の品格を取り戻すことであろう。すべての日本人に誇りと自信を与える。	新潮新書
12 人は見た目が9割 竹内　一郎著	顔つき、仕草、目つき、におい、色、温度、距離など私たちを取り巻く言葉以外の膨大な情報が持つ意味を考える。心理学からマンガまで、あらゆるジャンルの知識を駆使した日本人のための「非言語コミュニケーション」入門。	新潮新書

著名・著者名	解説・紹介	発行所
13 西田幾多郎 －生きることと哲学－ 藤田正勝著	石川県出身の哲学者西田幾多郎。今なお国内外で新たな思考を啓発しつづける西田哲学の「真に生きる」、「世界の中で生きること」と直接にむきあったその思考の軌跡へと導く案内の書。	岩波新書
14 間のとれる人間抜けな人 －人づき合いが楽になる－ 森田雄三著	「コミュニケーションの強迫観念」と「自分へのこだわり」を捨て、「間」と「沈黙」に腰を据えると、人づき合いはぐっと楽になるし、深くなる。本校卒業の名演出家が教える、古くて新しい、日本人のコミュニケーション論。	祥伝社新書
15 自分は死なないと思っている ヒトへ　知の毒 養老猛司著	世の中が進歩すればするほど、人間が愚かになっていくのはなぜか？情報に振りまわされ、「時間」病にかかり、「知ること」の恐ろしさを顧みないカチンカチンの世界に生きる人間への警告。養老人間学の原点。	だいわ文庫
16 絵のある人生 安野光雅著	いい絵とは何だろうか。ブリューゲル、ゴッホらの興味深い逸話や自らの経験を語るとともに、これから絵を描いてみようとする人への具体的な手ほどきも行なう。	岩波新書
17 仏教美術入門 －目で見る仏像の生いたち－ 佐和隆研著	仏教美術について、彫刻や絵画の技法的・様式的な美しさだけでなく、仏像の名前の意味や常識を教えてくれる。	教養文庫
18 指揮のおけいこ 岩城宏之著	オーケストラ・アンサンブル金沢の音楽監督であった作者の楽しい話が満載。後ろ姿だけからでは分からない、クラシック指揮者の世界が見えてくる。	文春文庫
19 超・美術館革命 －金沢21世紀美術館の挑戦－ 蓑豊著	一般になじみの薄い現代美術を扱う金沢の美術館に、わずか2年あまりで300万以上もの人びとが訪れた。美術館に革命を起こした「アイデアと情熱」をすべて紹介する。	角川Oneテーマ21
20 文章読本 丸谷才一著	多彩な名文を実例に引きながら、実作者の立場に立って、作文のコツを具体的に説く。作文の意欲をかきたてる名著。	中公文庫
21 なぜ国語を学ぶのか 村上慎一著	「日本語はちゃんとしゃべれるのに、どうして今さら国語を勉強しなければならないの？」「古典や漢文を学ぶことに何の意味があるの」、国語が苦手で嫌いな人、一緒に考えよう。	岩波ジュニア新書
22 新しい日本語の予習法 金田一秀穂著	外国人の目で見た日本語、言葉遣いの変化、日本人の「人見知りの文化」のことまで、日本人と日本語についてまったく新しい視点からの提言。	角川Oneテーマ21
23 ちゃんと話すため敬語の本 橋本治著	敬語という面倒くさい言葉をつかって生きる私たちのための本。歴史的な背景もわかりやすく説明してくれる。敬語を学ぶことは、人との距離のとり方を学ぶこと。つまり、人付き合いのマニュアル本でもある。	ちくまプリマー新書
24 樋口一葉「いやだ！」と云ふ 田中優子著	24年の短い生涯に、近代文学に燦然と輝く名作を残して逝った樋口一葉。「いやだ！」といいながら、困難な時代に立ち向かった一葉の魂のメッセージを伝える評伝。	集英社新書
25 大学受験のための小説講義 石原千秋著	最近の入試問題の中から代表的な問題を選び、入試国語の隠されたルールを見つけながら、独自の読解法を伝授。小説の醍醐味を味わいたいと思っている人も必読。	筑摩新書

著名・著者名	解説・紹介	発行所
26 日本語の歴史 山口　仲美著	現代の日本語はどのようにして出来上がってきたのだろうか。やまとことばと漢字との出会い、日本語文の誕生、江戸言葉の登場…。「話し言葉」と「書き言葉」のせめぎあいからとらえた日本語の歴史。	岩波新書
27 変わる方言動く標準語 井上　史雄著	現代日本語は千年で千キロ、日本列島を移動してきた。「動くものとしてのことば」を社会・歴史・地理の座標軸に位置づけなおす、壮大でスリリングな日本語論。	ちくま新書
28 英語の論理日本語の心 牧野　高吉著	文化が違えば発想も違う。言葉は文化であり、外国語は異文化の言葉。2つの発想の違いを比較しながら、英語のセンスを身につける本。	ちくま プリマー新書
29 英語達人列伝 －あっぱれ、日本人の英語－ 斎藤　兆央著	英語ができるってどんなこと？「日本人は英語が苦手だ」というけれど、昔の日本人はどのようにして勉強したか。英語の得意な人もそうでない人も一読に値する一冊。	中公新書
30 旧約聖書を知っていますか 阿刀田　高著	西欧文化の原点の一つである「旧約聖書」の世界を、ユーモラスにかつ現代的感覚で解説した阿刀田式古典ダイジェスト。	新潮文庫
31 膨張中国 －新ナショナリズムと歪んだ成長－ 読売新聞社取材団編	驚異的な経済成長はこのまま続くか。反日はなぜ激化するのか。巨大な中国を集められた生の声の向こうに求めるルポルタージュ。最新の中国を考えるための情報がつまっています。	中公新書
32 エビと日本人Ⅱ －暮らしのなかのグローバル化－ 村井　吉敬著	エビを通じて、私たちの食卓と世界との関係、グローバル化が日常的に浸透しているようすが立体的に浮かび上がる。	岩波新書
33 バール、コーヒー、イタリア人 －グローバル化もなんのその－ 島村　菜津著	なぜイタリアには、スタバもコンビニもシャッター通りもないのか？イタリアの象徴で、スタバ化・マクドナルド化の抵抗するバール（気軽に入れる立ち食い中心の店）の魅力を書き尽くす。	光文社新書
34 大江戸リサイクル事情 石川　英輔著	世界最大都市江戸。大量の日常消費は草の根レベルのリサイクルによって支えられていた。現代では忘れ去られ失われた合理的で無駄のない暮らしの知恵を描く。	講談社文庫
35 風景学・実践篇 －風景を目ききする－ 中村　良夫著	著者は「制度化された」古典的風景にとらわれない、自らのうちに生成される風景の現場に読者を誘い、風景の愉しみ方を会得させてくれる。	中公新書
36 少子社会日本 －もうひとつの格差のゆくえ－ 山田　昌弘著	少子化がなぜここまで深刻化したのか。その決定的な理由を探るために、若者の不安定な職業状況、「パラサイト・シングル」の誕生、恋愛・結婚観の変容などを分析。少子化論議に一石を投じる書。	岩波新書
37 介護現場からの検証 結城　康博著	サービスの利用者をはじめ、その家族、介護従事者、行政担当者など大勢の人たちへのインタビューをもとに、介護現場で、「今、何が起きているか」を簡潔にまとめた。	岩波新書
38 そうだったのか！現代史 池上　彰著	民族紛争によるテロ事件、北朝鮮問題など、世界中から伝わってくるニュースの背後には、事件に至るまでの歴史がある。「知らない」ではすまされない現代史の基礎知識を、わかりやすく解説する。	集英社文庫

推薦に当たって

◎ 評論・随筆といったジャンルのものに限って推薦してあります。小説だけでなく、様々な分野の文章を、積極的に読むようにして下さい。
◎ 興味ある著者が見つかったら、他の著作にもぜひ触れて下さい。
◎ 推薦に当たっては、手にはいりやすいようにとの配慮から、文庫・新書の類に限定してあるので、良書に触れる機会を増やして下さい。

著名・著者名	解説・紹介	発行所
39 日本の誕生 吉田　孝著	ヤマトを本処に発展した「倭」－「日本」の王権は東アジア世界の歴史の潮流の中でどう展開したか。国号問題から天皇制、政治システム、宗教意識、美意識など現代につながるテーマの考察。	岩波新書
40 武士の家計簿 －「加賀藩御算用者」の幕末維新－ 磯田　道史著	加賀藩の会計係がつけていた詳細な自分の家の家計簿から幕末維新期の生活の歴史が見えてくる。日本史の時間にかけ足で習ったことが、具体的に見えてきて、楽しく実感できる。	新潮新書
41 近江商人 －現代を生き抜くビジネスの指針－ 末長　國紀著	日本各地に活躍の場を求め、ときに海外へも雄飛した近江商人は、わが国のビジネスマンの草分けである。彼らの経営手法が持つ普遍性や先見性とは何か。	中公新書
42 発酵食品礼讃 小泉　武夫著	バター、チーズ、納豆、鰹節から、野鳥の塩辛、珍酒まで、世界各地で伝承されてきた食生活にひそむ「発酵」というステキな智恵。	文春新書
43 ニッポンの縁起食 －なぜ「赤飯」を炊くのか－ 柳原一成・柳原紀子著	なぜ「赤飯」を炊くのか？なぜ「鯛の尾頭付き」を食べるのか？なぜ「餅」を搗くのか？年中行事や通過儀礼の美味しいしきたりを、料理・植物学・歴史の三方向から徹底考察する。	生活人新書
44 世にも美しい数学入門 藤原正彦・小川洋子著	「数学」と聞くと、ただ数式が羅列してあるだけで無機的なものだと感じている人が多いのでは？　ところが一度知ってしまうとこれ程美しい学問はない。	ちくま プリマー新書
45 フェルマーの大定理が解けた 足立　恒雄著	フェルマーは17世紀に生きたフランスの人で、法律の仕事をしていた。数学を余暇として、n＞2の自然数であれば、$x^n+y^n=z^n$という方程式は自然数解x, y, zを持たないと予想した。	講談社 ブルーバックス
46 カレーを作れる子は 算数もできる 木幡　寛著	「なぜそうなるのか？」を問い、それを解決するための仮説や、具体的方法を考えることが21世紀に求められている学力。それに役立つ数学的な基礎・基本の親子のための練習帳。	講談社 現代新書
47 化学意表を突かれる 身近な疑問 日本化学会編	身近な事象の中から集めた化学に関する70の疑問を、親子の会話形式にしてやさしく解き明かす。素朴ながら虚を突く質問に化学の原理を踏まえ、丁寧に答える。	講談社 ブルーバックス
48 DNA（上・下） ジェームズ・ワトソン著	遺伝学の歴史から、二重らせん発見のドラマ、遺伝子組み換え農業、ヒトゲノム計画の舞台裏まで分子生物学の第一人者が赤裸々に語る。	講談社 ブルーバックス
49 欲望する脳 茂木健一郎著	欲望と欲望がぶつかり合うとき何が起るのか。人は自らの欲望と、どう付き合いながら生きればよいのか。人気脳学者が具体例を挙げながら論ずる。	集英社新書
50 退化の進化学 犬塚　則久著	サメの顎が退化した耳小骨、トカゲの眼のなごりの松果体、舌にのこる「二枚舌」の痕跡、男にもある「子宮」など、祖先とは機能を変えたり、失ったりした器官をみれば、ヒトの進化の道をたどることができる。	講談社 ブルーバックス